

日本における令和6年度の人権啓発重点目標

『誰か』のこと じゃない。



チョークを作っている会社

●みなさんは、「日本理化学工業」という会社を知っていますか。それほど有名な会社ではありませんが、実は、皆さんや先生が毎日学校で使っているチョークを作っている会社です。

この日本理化学工業は、今注目されています。「日本で一番大切にしたい会社」という本の中でも紹介されているのですが、なぜでしょうか。

●今の社長さんは、大山泰弘^{やすひろ}さんといいます。お父さんから会社を引き継いで、しばらくたったころ、大山さんは近くにあった特別支援学校の先生から、相談を持ちかけられます。

「ウチの生徒をそちらで雇^{やと}っていただけないでしょうか。」

大山さんは迷いました。ウチの会社に障がいのある人、しかも知的障がい者をやとえるのだろうか？それまで大山さんは、特別に障がいのある方に親切にしていたわけではなく、かえって、理解していないほうだったそうです。結局、パート社員の人を手助けとすることになり、2人の卒業生を採用することになったのでした。

●彼らの仕事ぶりはまじめでした。ただ、時々いうことを聞いてくれなくなることがあり、そのたびに大山さんが「施設に帰ってもらうよ」というと、泣いていやがるのです。大山さんは不思議に思いました。なぜなら、施設にいるほうが体も楽し、怒られずすむはずだからです。

ある日のこと、法事に参加した大山さんは、お寺のご住職にそのことを尋^{たず}ねてみました。するとご住職はこう答えてくれました。

「人間の幸せは、金やモノだけではありません。人間の究極の幸せは次の4つです。その一つは、人に愛されること。2つは人にほめられること。3つは人の役に立つこと。そして4つ目は人から必要とされること。障がいの方が施設で保護されるより、会社で働きたいと願うのは、社会で必要とされて、本当の幸せを求める人間の証^{あかし}なのです。」

●目からウロコが落ちる思いがした大山さんは、経営者として、会社は社員に幸せを分け与えるところではなくてはならないと考えるようになり、以後、社員に知的障がい者の人たちを採用していくことになります。

“知的障がい者が働く会社が一つくらい日本にあってもいい”
——そう思って障がい者の方をやと^{やと}い始めて、もう60年以上になります。



今、日本理化学工業の社員は全部で79人。うち60人が知的障がい者の方です。チョーク製造部門はほぼ100%障がい者の方たちで運営されているのです。障がいがある方でも、まちがわれないような工夫や、安全の工夫もたくさん考えてあります。こうしていち早く“多様な人々が開かれた会社”であったことが、今評価されているのです。

チョークを手にとったら、1本1本をていねいに作っている人を想像しながら使ってみてください。